

## 令和3年度普通会計決算統計からみた仙北市の財政指標

▶ **基金現在高** 31億1,650万6千円

財源不足への備えや、地域振興などの特定目的に活用するための積立金の現在高。

▶ **地方債現在高** 232億2,242万6千円

道路、河川、学校などの施設整備のために借り入れた地方債（長期借入金）の現在高。

▶ **財政力指数** 0.259

財政力を表す指標で、「標準的な行政を行うために必要な財源に対する市税などの自主財源の割合」の過去3か年の平均値。「1」に近いほど財源に余裕があり、地方交付税や補助金などへの依存度が高いほど低い数値になります。

仙北市は市税の割合が歳入の11.6%で、県内の多くの市町村と同様、地方交付税への依存度（40.6%）が高くなっています。

▶ **経常収支比率** 93.2%

財政構造の弾力性を表す指標で、市税や地方交付税など（一般財源）を人件費や扶助費、公債費など（経常的経費）にどのくらい割り当てられているかを表す指標。この比率が高いほど、財政は硬直化していることになります。

仙北市は昨年度（95.8%）と比較し2.6%改善しています。

▶ **実質公債費比率** 9.3%

標準的な行政サービスを行うための財政規模（標準財政規模）に対する市の借金返済金（公債費※地方債の元利償還金、下水道や病院などの元利償還金に対する負担金、繰出金なども含む）の割合。この比率が高いほど、財政の硬直性が高く、18%未満が望ましいとされ、25%を超える団体は地方債の一部が制限されます。

仙北市は昨年度（9.9%）と比較し0.6%改善しています。

令和4年3月31日現在の人口24,480人で計算

## 人口1人あたりに換算すると…。

合計 905,482円 内訳は…。

<b>議会費</b> 市議会運営のためのお金	6,307円	<b>商工費</b> 観光や商工業の振興のためのお金	42,618円
<b>総務費</b> 行政運営のためのお金	177,540円	<b>土木費</b> 道路や公園の整備などまちづくりのためのお金	92,200円
<b>民生費</b> 子どもやお年寄り、体の不自由な方などの福祉のためのお金	228,240円	<b>消防費</b> 火災・自然災害などの防災活動のためのお金	34,033円
<b>衛生費</b> ごみ処理や市民の健康のためのお金	120,376円	<b>教育費</b> 学校などの整備や教育振興のためのお金	61,703円
<b>労働費</b> 働く機会の確保や労働環境を改善するためのお金	2,770円	<b>公債費</b> 市の借入金の返済のためのお金	85,174円
<b>農林水産業費</b> 農林水産業の振興と育成のためのお金	54,521円		

## 一般会計 歳出（目的別）



# 令和3年度 決算をお知らせします

問 仙北市財政課 ☎ 43-1113

歳入総額－歳出総額－繰越財源

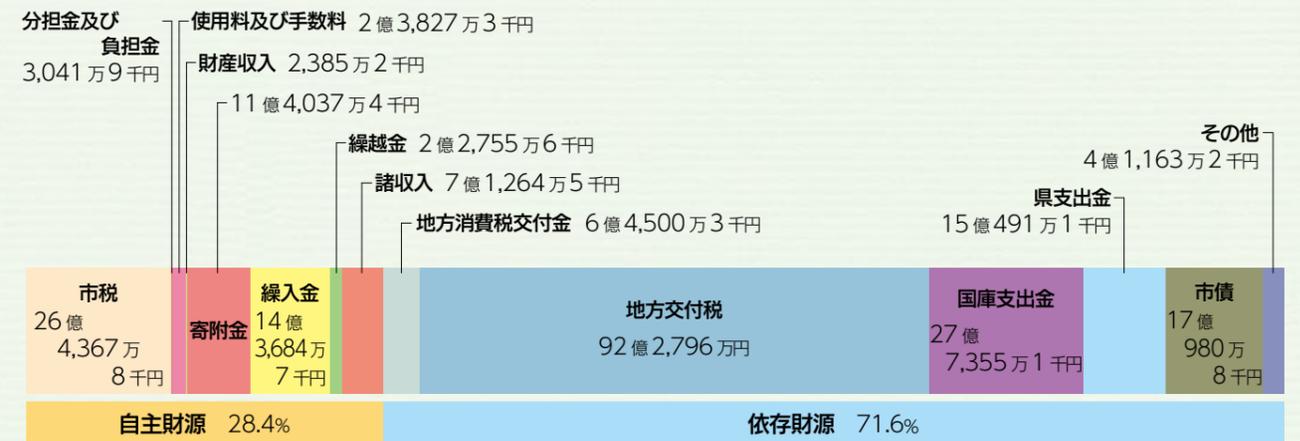
令和3年度一般会計の決算額は、歳入総額227億2,650万9千円、歳出総額221億6,620万6千円、歳入歳出の差引が5億6,030万3千円です。

これから次年度に繰り越した事業の財源6,139万2千円を差し引き、4億9,891万1千円の黒字となりました。

実質収支額は  
**4億9,891万1千円の黒字**

	歳入総額	歳出総額	差引額	繰越財源	実質収支額
3年度	227億2,650万9千円	221億6,620万6千円	5億6,030万3千円	6,139万2千円	4億9,891万1千円
2年度	264億4,975万円	260億1,776万3千円	4億3,198万7千円	2,312万5千円	4億886万2千円
増減額	▲37億2,324万1千円	▲38億5,155万7千円	1億2,831万6千円	3,826万7千円	9,004万9千円

## 一般会計 歳入 総額 227億2,650万9千円



### 用語解説

<b>市税</b> 市民税や固定資産税など	<b>繰入金</b> ほかの会計から繰り入れしたお金	<b>国庫支出金</b> 特定の事業に対し、国から交付される補助金など
<b>分担金及び負担金</b> 保育料など	<b>繰越金</b> 前年度残ったお金	<b>県支出金</b> 特定の事業に対し、県から交付される補助金など
<b>使用料及び手数料</b> 施設使用料や戸籍等の証明書交付手数料など	<b>諸収入</b> 貸付金の元利収入など	<b>市債</b> 大きな事業を行うために借り入れるお金
<b>財産収入</b> 貯金利子や市所有物の売却収入など	<b>地方消費税交付金</b> 消費税から一定の基準で地方に交付されるお金	<b>その他</b> 地方譲与税、各種交付金など
<b>寄入金</b> 寄附でいただいたお金	<b>地方交付税</b> 地域間の財政力格差を調整するために国から交付されるお金	

## 一般会計 歳出（性質別） 総額 221億6,620万6千円



# 表紙の写真から

## 体育館に歓声響く 障がい者スポーツを体験

10月8日、大曲支援学校せんぼく校で誰でも楽しめる障がい者スポーツの体験教室が行われました。

この日は、同校の同窓生が集まり交流を深める「せんぼく桜スクール」を兼ねて開催。同窓生のほか、指定障がい福祉サービス事業所・愛仙の利用者や地域の方など21人が参加しスポーツを楽しみました。

体育館には、卓球バレー、ボッチャ、バドミントン、3×3バスケットボールの4種類の区画が設けられ、参加者は興味のある種目を体験。卓球バレーとボッチャでは、秋田県の社会教育主事の指導を受けながら楽しくスポーツをする姿が見られ、好プレーが出るや歓声が上がると盛り上がりっていました。

初めて参加したという同窓生の大柄喜保さんは「参加した皆さんと一緒に体を動かすことができるとも楽しかった」と、また愛仙利用者の藤本拓也さんは「卓球バレーが楽しかったので、またやってみたい」と感想を述べました。

同窓会会長の林将広さんは「4種類のスポーツを体験し、とても楽しかった。またこのような機会があると思う」と話しました。



赤と青のチームに分かれて目標となる白いボールに近づくかを競うボッチャ。



卓球バレーは、1チーム6人でネットを挟み、イスに座ってボールを打ち合います。

仙北市地域おこし協力隊として佐藤成真さんが着任し、10月3日、委嘱状が交付されました。

仙北市では、これまで9人の協力隊員を受け入れ、佐藤さんが10人目となります。佐藤さんは、これまでフリーランスで動画編集の仕事をしており、日本国内の会社の仕事に携わっていました。

佐藤さんは、さいたま市生まれで、親の仕事の関係で9歳から7年間、アメリカのケンタッキー州、バースタウンで育ちました。帰国後は、福島県内の高校を卒業、その後は秋田市の国際教養大学に進学して2021年3月に卒業しています。卒業後は、秋田市の古民家に友人や後輩とシェアしながら住み、フリーランスで仕事をしていました。動画編集の仕事は高速回線が必要なことから、一度、茨城県に移住したものの大学在学中に訪れた乳頭温泉郷や田沢湖の自然を思い出し、田舎暮らしをしたいと強く思ったそうです。

地域おこし協力隊に  
初めまして!  
着任しました

仙北市のグリーンツーリズムの魅力の世界へ発信  
仙北市地域おこし協力隊

佐藤成真さん



佐藤さんの業務は、インバウンドグリーンツーリズムの推進が主になります。その業務を行うにつれ「武家屋敷などの歴史について、英語の字幕を入れて説明するような映像の配信など、得意な語学を活かしたい。また、キャリアアップのためにも、編集にとどまらず、撮影にも取り組みたい」と、抱負を語ってくれました。

田口市長からも「動画編集のポートと聞いており、観光資源が豊富で日本有数の観光地であるこの仙北市の魅力を多くの皆さんに届けたいと思っているので、そちらでも力を貸していただきたい」と、あいさつがありました。

## 公営企業会計 収入・支出

会計名	区分	収入	支出	差引
病院事業	収益的収支	46億3,049万1千円	49億2,564万4千円	▲2億9,515万3千円
	資本的収支	3億7,730万8千円	6億807万9千円	
温泉事業	収益的収支	4,502万4千円	4,932万8千円	▲430万4千円
	資本的収支	6,111万1千円	6,298万1千円	
水道事業	収益的収支	4億7,286万7千円	5億7,990万7千円	▲1億704万円
	資本的収支	4億5,703万1千円	6億6,095万円	
下水道事業	収益的収支	8億4,239万8千円	9億2,514万7千円	▲8,274万9千円
	資本的収支	6億1,266万6千円	7億9,053万8千円	

※収益的収支については、消費税及び地方消費税を除く（損益計算書から）。

### 用語解説

#### 収益的収支とは…

地方公営企業の経常的企業活動に伴い、年度内に発生すると見込まれるすべての収益とそれに対応するすべての費用のことです。したがって、減価償却費のように現金支出を伴わない支出についても費用に含まれます。

#### 資本的収支とは…

効果が次期以上におよび将来の収益に対応する支出とその財源となる収入のことです。施設の整備や企業債の償還元金などの支出、これに要する資金としての企業債収入なども資本的収支に含まれます。

## 特別会計 歳入・歳出

会計名	歳入総額 (A)	歳出総額 (B)	歳入歳出差引額 (C) (A-B)	繰越事業費 繰越財源 (D)	実質収支額 (C-D)
集中管理	41億8,162万3千円	41億8,162万3千円	0円	0円	0円
国民健康保険 (事業勘定)	31億3,208万2千円	29億4,437万8千円	1億8,770万4千円	0円	1億8,770万4千円
国民健康保険 (神代診療施設勘定)	9,171万2千円	9,168万1千円	3万1千円	0円	3万1千円
後期高齢者医療	3億3,726万2千円	3億3,716万円	10万2千円	0円	10万2千円
介護保険	4億5,560万7千円	4億5,552万7千円	8万円	0円	8万円
生保内財産区	1億1,737万5千円	1億671万6千円	1,065万9千円	0円	1,065万9千円
田沢財産区	6,172万2千円	5,258万9千円	913万3千円	0円	913万3千円
雲沢財産区	1,052万円	880万9千円	171万1千円	0円	171万1千円

決算は仙北市ホームページからもご覧いただけます

(<https://www.city.semboku.akita.jp/government/information/kessanjyokyo.html>)



# 第16回仙北市ソフトテニス大会

- 第1部**
  - 優勝 武蔵勇亨・高橋司 (角館クラブ・田沢湖クラブ)
  - 第2位 後藤一哉・高橋辰也 (角館クラブ・同)
  - 第3位 佐藤明広・鈴木裕介 (西木クラブ・田沢湖クラブ)
- 第2部**
  - 優勝 新山基紀・猪本幸夫 (角館クラブ・同)
  - 第2位 西宮渉生・進藤天翔 (西明寺中・同)
  - 第3位 伊藤雅英・高橋輝昭 (田沢湖クラブ・同)
- 第3部**
  - 優勝 澤山こころ・齋藤いちか (西明寺中・同)
  - 第2位 安藤愛・三嶋愛美 (神代中・同)
  - 第3位 高橋好彦・高藤久晴 (角館クラブ・田沢湖クラブ)

10月2日、八乙女運動公園テニスコート(大仙市)で第16回仙北市ソフトテニス大会が開催され、38ペア総勢76人が参加しました。参加者は、熱戦を繰り広げ、大会は大いに盛り上がりました。結果は左記のとおり。(敬称略)



大会の様子。

## 初心者向け

### スマートフォン講座

お持ちのスマートフォンを、使って実践的に習得

仙北市では、地方創生推進交付金事業「人の流れと新たな時代をつくるサテライトオフィス誘致促進事業」を実施しています。

その一環として、市内のIT人材の育成や、ITを活用できる方とできない方の間に生じる情報格差の解消を目指して、一連の講座を開講しています。

9月3日と10月1日、お持ちのスマートフォンを実際に操作しながら基本操作の習得を目指す、初心者向けスマートフォン講座が開催されました。角館交流センターと田沢湖総合開発センターで各2回の全4回の講座を実施し、多くの受講者が参加しました。

講座では、スマホの基本操作やカメラ操作、地図アプリの使い方などに加えて、ワフチン接種予約やマイナンバーなどの紹介も行われました。

参加者は、スマートフォンをうまく使いこなせるよう、積極的に質問され、講師とサポートスタッフがそれに応えて、丁寧にフォローを行っていました。



個別フォローの様子。

首都圏などから仙北市の定住促進、観光PR、産業振興を目指して

## ふるさとサポーター会議

### オンライン開催

10月9日、仙北市ふるさとサポーター会議がオンラインで開催されました。

仙北市の定住促進や観光PR、産業振興を図るために、首都圏などを中心に、仙北市出身者や仙北市の自然、文化、歴史をこよなく愛する方々になっていただいている仙北市ふるさとサポーター。

新型コロナウイルス感染症拡大以降、令和2年度は中止、令和3年度は書面開催だったため、3年ぶりに顔を見ての開催となりました。

当日は、オンライン対応が難しい方向けに移住・交流情報ガーデン(東京都中央区)にサテライト会場を準備。市役所角館庁舎サテライト会場、サポーターのご自宅をオンラインでつなぎ、ふるさとサポーターと市役所職員など合わせて9人が参加しました。

会議では、仙北市から角館のお祭りや曳山運行や田沢湖マラソンの3年ぶりの実施のほか、角館地区のよぶる角館と田沢湖地区のたつちゃんモビのAI配車サービスの取り組みなどの近況が報告されました。仙北市の近況に興味を持ったサポーターの皆さんからは、活発に質問がありました。中でもAI配車サービスについては、将来仙北市に戻った際にそのような交通サービスがあれば助かるなどのご意見がありました。

市では、仙北市ふるさとサポーターのご意見を参考にしながら、引き続き、サポーターと連携して地域活性化に取り組んでいく予定です。



オンライン会議の様子(画面中央は東京サテライト会場)。

## 国際ソロプチミスト大曲から 放課後児童クラブに児童図書を寄贈いただきました



善意ありがとうございます

国際ソロプチミスト大曲の皆さん。

9月19日、国際ソロプチミスト大曲より、認証30周年記念事業として仙北市の放課後児童クラブに児童図書(10万円相当分)を寄贈いただきました。記念式典には田口市長が出席し、同団体から目録を拝受しました。

同団体からは、平成30年6月26日にも児童図書(10万円相当分)を寄贈いただいております。今回で2度目となります。

9月13日には、仙北市在住の会員も含め、5人の会員の方々が角館庁舎を来訪し、納品された図書の確認や図書にラベルを貼る作業をしてくださいました。

早速、各クラブ児童は、寄贈された新しい本を熱心に読んでいます。

## 秋田県東部地区郵便局長会仙北北部会から 可動式ノートタッチディスプレイ一式を寄贈いただきました



田沢郵便局の浅利文彦局長(中央)から受け取る田口市長(左)。右は中川郵便局の石塚仁局長。

10月11日、仙北市と大仙市一部の郵便局長10人からなる秋田県東部地区郵便局長会仙北北部会よりノートタッチディスプレイ(非接触型自動手指除菌消毒器)と消毒液一式4セットを寄贈いただきました。

雲沢郵便局長で部長の石川博之さんは「新型コロナウイルス感染症の拡大を経る中でも少しでも安心して地域のイベント開催などに役立てていただければ」と話しました。

ドローンを保有する市民や市内事業者と協力

## 被災状況把握のドローン実証実験

仙北市は、株式会社ウフル(東京都港区)とソフトバンク株式会社(同)とコンソーシアムを作り、令和3年度より国交省スマートシティモデルプロジェクトの採択を受けています。同事業では、IoT(モノのインターネット)やAIなどを活用して市内の広範なエリアの防災情報や被災状況を一元把握する仕組みの実現に取り組んでいます。

令和4年度は、市民や市内事業者が保有するホビー用ドローンなどを活用することで、市内全域の速やかな状況把握の実現に向けた取り組みを進めています。10月7日にドローンを保有する市民や市内事業者の協力を得て、田沢湖高原スキー場跡地の市指定ドローン飛行エリアで実証実験を実施しました。

実証実験には、令和3年7月の熱海土石流災害でドローン空撮画像などから捜索活動に役立つ地図状の画像を作成して災害対策本部へ提供するなどの活躍をされた株式会社テラ・ラボが参加しました。同社の技術面の指導を受けながら、ドローンの実証飛行が実施されました。実証実験では、ホビー用ドローンの空撮画像を効率よく重ね合わせる、傾きやゆがみのない精細な地図状の画像にする方法を探りました。この方法を活用できれば、平成25年8月に供養佛地区で発生したような土砂災害が起きた場合、空撮画像を合成した地図状の画像と住宅地図などを重ね合わせることで、迅速かつ効率的な捜索を行うことが期待できます。

当日は、ドローンでの空撮の後、アルパこまくさ場所に移動して、模擬災害対策本部を置く市役所田沢湖庁舎とオンラインで地図状に合成した画像を共有しました。平面で高低差が分からないという課題はありましたが、単一の空撮写真で分からない俯瞰的で、かつ、地図と重ねられる精度の画像を得られることが確認できました。実証実験の結果は引き続き精査していきますが、今後の活用が期待できます。



ドローン飛行の様子。

## 百寿

### おめでとう いじりごま

#### 堀川清子さん

9月30日、堀川清子さん(田沢湖田沢)が100歳の誕生日を迎えられ、自宅でお祝いが行われました。

当日は、家族の皆さんが集まり、仙北市からお祝いと花束が贈呈されました。



清子さん(中央)にお祝いが贈られました。

★ 栄光・表彰 ～輝くとき

インスペック株式会社が地域貢献活動



清掃活動を通じてSDGsの取り組みを実践しました。

SDGsの取り組み

10月1日、インスペック株式会社がSDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」のテーマのもと、桜並木駐車場から武家屋敷通りに向かう道路周辺で清掃活動を行いました。

同社は、昨年からSDGsについて学び、社内で組織するIGs委員会を中心に、日常的にどの項目で貢献できるかを考えた取り組みを実践しています。

清掃活動は、昨年に引き続き2回目の実施で、当日は社員やその家族など大人23人と子ども9人の計32人が参加。歩道などに散らばった落ち葉を集めたり、車道と歩道の境目に生えた雑草の除草作業などに汗を流しました。作業を終えるころには、団体で訪れた観光客の皆さんがきれいになった歩道を歩いて武家屋敷の観光に向かっていました。

同社ではこの取り組みのほか、農家の皆さんが収穫して自宅で処理しきれない野菜を会社に持ち寄り、希望する社員へ配ることで野菜の無駄をなくすフードロス対策の活動なども行っています。これからも、地域社会に貢献できる活動を継続していくことにしています。

入山者に注意を呼びかけ

キノコ採り遭難・  
秋田焼山火山ガスに注意！

10月14日、キノコ採りによる遭難事故が増えるこの時期にあわせ、仙北警察署と仙北市は遭難事故防止に向けて入山者へ安全を呼びかけるため、チラシを配布しました。

この日は、午前9時から10時頃にかけて仙北警察署員と市消防団女性消防団員が生保内宇下高野付近で秋田駒ヶ岳方面へ向かう方々に遭難事故防止などの注意を促すチラシを配布。通りかかった車両のドライバーにキノコ採り遭難の注意を呼びかけたほか、秋田焼山では火山ガスが噴出・滞留している危険エリアが多くあることから入山の際の注意もあわせて呼びかけました。

入山の際の注意点

- ☑ 家族に行き先を必ず伝える
- ☑ 複数で入山する
- ☑ 遭難した時に備えて、携帯電話、水、食料、白色タオルを持参する（1番目立つ色は白です）
- ☑ 日没が早くなっているため、早めの下山を心がける
- ☑ 自分の体力、体調にあわせた行動をする



クマにも十分注意しましょう。

わたしの主張2022 第44回少年の主張秋田県大会

高田菜花さん(神代中3年)が最優秀賞

戸澤悠稀さん(西明寺中3年)が優秀賞

9月20日、土崎中学校(秋田市)で開催された「わたしの主張2022—第44回少年の主張秋田県大会—」に出場した神代中学校の高田菜花さん(3年)が見事最優秀賞に、西明寺中学校の戸澤悠稀さん(3年)が優秀賞に輝きました。

同大会は、中学生に物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身に付けてもらうという行われているもので、全県から地区大会を勝ち上がった13人が出場しました。

県南地区大会での優秀賞を経て全県大会への出場となった高田さんは「風も月も人も同じ」をテーマに主張。台湾の学生とのオンライン交流をきっかけに台湾と中国の関係やウクライナなどの世界の情勢に目を向け、国の違いはあっても同じ人間として違いはないことについて訴えました。

また、戸澤さんは、多様性をテーマに、その向き合い方について主張しました。



優秀賞に輝いた戸澤悠稀さん。



最優秀賞に輝いた高田菜花さん。

北ブロック大会へ出場(ビデオ審査)した高田さんは「ビデオ審査は、観客の前で発表した県南大会、全県大会と環境は違ったが、自分が主張したいことをはっきりと皆さんに伝えるように発表できたと思う」と話しました。

戸澤さんは「わたしの主張を通じて、自分とは違う考え方や視点をもつ様々な主張を聞き、日常生活でも多くの視点から物ごとを見る事ができるようになった」と話しました。

第73回大曲仙北中学校英語暗唱弁論大会

藤村愛歩さん(神代中3年)が最優秀賞

8月26日、大曲中学校(大曲市)で開催された「第73回大曲仙北中学校英語暗唱弁論大会」で神代中学校の藤村愛歩さん(3年)が暗唱の部で最優秀賞に輝きました。

英語の上達や国際親善などを目的に行われる同大会。藤村さんは、教科書に載っていたノーベル平和賞を受賞したパキスタン出身のマララ・ユスフザイさんの英語スピーチ

「Education First(エデュケーション・ファースト)」を暗唱しました。全世界の子どもたちに教育を訴えたマララさんのスピーチ。藤村さんは、ALT(外国語指導助手)の先生と一緒に練習に励んだそうです。



最優秀賞に輝いた藤村愛歩さん。

ララさんの主張をみんなにも伝えたいと思いながらスピーチした」と話しました。

JOCジュニアオリンピックカップ第53回U16陸上競技大会秋田県選手選考競技会

石川才稀さん(神代中2年)が優勝

8月27日、秋田県立中央公園県営陸上競技場(秋田市)で開催された「JOCジュニアオリンピックカップ第53回U16陸上競技大会秋田県選手選考競技会」のジャベリックスロー女子の部で神代中学校の石川才稀さん(2年)が優勝し、本大会の出場権を獲得しました。

タージャブと呼ばれる羽根付きの投てき物を投げ、その距離を競うジャベリックスロー。今年から同競技を始めたという石川さんは、夏休みの駅伝練習の合間に練習を重ねたそうです。



優勝した石川才稀さん。

全国大会に向けて石川さんは「全県大会では優勝できたけれども、思うような記録が残せなかった。全国大会では普段から教えてもらっていることを意識して全力で投げたい」と話しました。

★ 栄光・表彰 ～輝くとき

安全・安心なまちづくりに貢献

たざわ湖防犯巡回隊が全国表彰受賞



左から、田口市長、たざわ湖防犯巡回隊の佐々木和幸隊長、佐々木誠子副隊長、事務局の黒澤文喜さん。

10月4日、「公益財団法人全国防犯協会連合会表彰」でたざわ湖防犯巡回隊が功労ボランティア団体賞を受賞し、田沢湖庁舎へ報告に訪れました。同表彰は、地域安全活動を積極的に推進し、安全・安心なまちづくりに貢献した団体や個人を表彰するものです。

同隊は平成16年4月に設立。長年にわたり生保内小学校の下课時間帯に青色回転灯装備車で通学路などの見守り活動を行ってきたほか、月初めには校門で子どもたちに声をかけるあいさつ運動なども行っています。

佐々木和幸隊長は「子どもたちが事故や事件にあわず安心して下校できるようにこれからも動く防犯看板として見守っていききたい」と話しました。